



NPOいんば設立20周年記念式典開催

「泳げる印旛沼に！」を目標に水質改善・環境保全などに取り組み、昨年20周年を迎えたNPO法人印旛沼広域環境研究会（NPOいんば）は、コロナ禍により記念式典を1年遅れの11月7日（日）11時より佐倉市立美術館において開催しました。

基調講演や記念誌の紹介が行なわれ、功労者の中野英樹さん、立崎定幸さん、中村光夫さん、笠井みつさんに感謝状を贈呈しました。

基調講演は、元千葉県環境研究センター室長の小倉久子先生による印旛沼の昔から現在までの経緯とNPOいんばの活動を交えたわかりやすい内容で、これからのNPOいんばの活動に光を与えてくれる貴重な内容でした。なお、会員各位に送付させて頂きました「20周年記念誌」はいかがでしたでしょうか。

多くの皆様に支えられての20年間でしたが、これからも佐倉市民の憩いの印旛沼として親しむ人達が増え、子供達がふるさと・佐倉を好きになれるよう小さな力かも知れませんが、会員皆様のご協力を頂きながら進んでまいりたいと思います。

基調講演 印旛沼の恵み～昔も今も印旛沼から恩恵を受けている私たち～

【小倉久子先生の講演から抜粋】

昔も今も印旛沼から様々な恩恵を受けています。この恩恵のことを専門的には「生態系サービス」といい、このサービス（恵み、恩恵）には基盤、供給、調整、文化の4種類があります。

印旛沼そのものは、岸辺の部分が田んぼに代ったり、水深・形が変化したり、ベッドタウンとして開発されることにより沼水の汚濁が進んでしまいました。

NPOいんばは水質浄化啓発活動として、在来水草を甦らせようと子供たちと一緒に巻き込んで活動を続けています。決して簡単なことではありませんが、少しずつ少しずつ水草が甦っています。

さてこれからの印旛沼ですが、残念ながら水草が甦ったとしても沼の深さや沼底の形が違うので、昔の印旛沼に戻すことは難しいでしょう。さらに私たちの生活様式も違ってきています。しかし、これからも印旛沼の恩恵を受けられることはあります。現代のライフスタイルを考えた時に、印旛沼を楽しむことが大きな恵みになるのではないのでしょうか。

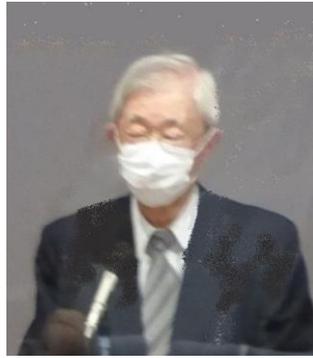
コロナ禍でも沼に散歩に出たり、良い環境を楽しむ市民が多かったと聞いています。アサザの美しい花を愛でる、沼辺に立って癒されるという「文化サービス」、沼で魚が獲れたら「供給サービス」、印旛沼名物「魚料理」を広めることも良いですね。

この講演を拝聴し、何が何でも昔に戻さなくてはならない、という感覚から、今ある恵みを楽しみながら活動を続けて行きたいと思いました。

なお、講演の全内容をご希望の方は事務局までご連絡ください。（園原）



司会 高橋副理事長



挨拶 高山理事長



基調講演 小倉久子講師



記念誌報告 園原事務局長



開会の辞 飯島理事



感謝状贈呈 立崎定幸氏



謝辞 中野英樹氏



閉会の辞 本橋理事



全員で記念撮影

編集後記

NPOいんば設立20周年記念誌を発行し皆様に送付させて頂きましたが、1章から7章にかけて20年にわたる活動の実績と随想を交えて掲載しました。また、編集に際してはお忙しい中にもかかわらず、多くの方から資料や原稿、印刷等へのご協力を頂き記念誌としての形を整える事が出来ました。誠にありがとうございました。

基調講演では時代に即応した知恵と活動が必須であることを理解しました。今後とも積み重ねた経験を基に、今後の活動を展開させる新たな道のりが見えて来ました。

編集部 岡本久幸

目次

- 1章 ご挨拶
- 2章 印旛沼の管理
- 3章 印旛沼の恵み
- 4章 本会の設立経緯
- 5章 活動記録
- 6章 随想（印旛沼と私）
- 7章 歴代役員名簿

2021年11月1日発行
発行・編集
特定非営利活動法人
印旛沼広域環境研究会
(通称NPOいんば)

NPOいんば設立20周年記念誌



佐倉市立和田小学校池のアザ

特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会
(通称:NPOいんば)